

おねがい

- ① 参加券(2,500円)は、1日め「全体会受付」でご購入ください。2日めは各会場でも購入できます。
- ② 各会場とも、定員に達した場合は他の会場への移動をお願いすることもありますので、ご了承ください。
- ③ 公共交通機関(JR、バス、タクシー等)のご利用をお願いします。
- ④ **各分科会会場周辺には、飲食店がないため、弁当を予め用意頂くか、弁当の事前購入申込みをお願いします。(お茶付800円)**
- ⑤ 宿泊の申込みについては、「宿泊のご案内」をご確認のうえ、必ず折込の申込書で7月10日(月)までに、別紙宛先へFAXしてください。鑑文・送付票等は不要です。
- ⑥ 台風など荒天時の対応は、佐賀県人権・同和教育研究協議会HPでお知らせします。

佐同教HPアドレス <http://sadokyo.juno.weblife.me/>



	施設名	会場へのアクセス
全体会、第1、第2、第6分科会、特別講座	佐賀市文化会館	佐賀駅バスセンター2番乗り場から乗車(路線バスまたはシャトルバスに乗車)佐賀市文化会館前下車
第3分科会	メートプラザ佐賀(佐賀勤労者総合福祉センター)	JR佐賀駅より徒歩20分
第4分科会	佐賀県教育会館	JR佐賀駅より徒歩18分
第5分科会	アバンセ(佐賀県立生涯学習センター)	JR佐賀駅より徒歩11分

○ 8月23日(水)シャトルバス運行について
 [往路] 佐賀駅バスセンター → 佐賀市文化会館前(170円)
 [復路] 佐賀県総合体育館前 → JR佐賀駅北口(150円)

● お問い合わせ先
佐賀県人権・同和教育研究協議会 事務局
 〒840-0214 佐賀県佐賀市大和町大字川上 佐賀県教育センター研究調査棟内
 TEL/(0952)62-6434 FAX/(0952)62-6435
 E-mail/sajinky@isis.ocn.ne.jp
 大会前日・当日の連絡先・・・090-2399-0860

第44回九州地区人権・同和教育夏期講座



ごあんない

● とき 2017年 **8月23日(水)→24日(木)**

● ところ **佐賀市文化会館 大ホール** ほか

〒849-0923 佐賀市日の出1丁目2番10号
 前日・当日連絡先・・・090-2399-0860

● 参加費 **2,500円** (資料代を含む)

● 日程	8/23水	12:00	13:00	16:30
		受付	全体会 開会行事・記念講演 ほか	

8/24木	9:00	9:30	12:00	13:00	15:30
	受付	実践講座(分科会) 特別講座Ⅰ・Ⅱ	昼食・休憩	実践講座(分科会) 特別講座Ⅲ	

- 主催 第44回九州地区人権・同和教育夏期講座実行委員会
 第44回九州地区人権・同和教育夏期講座佐賀県実行委員会
- 共催 佐賀市人権・同和教育研究会／佐賀市／佐賀市教育委員会
- 後援 大分県教育委員会／熊本県教育委員会／鹿児島県教育委員会／宮崎県教育委員会／長崎県教育委員会／福岡県教育委員会／沖縄県教育委員会／公益社団法人全国人権教育研究協議会／全国隣保館連絡協議会九州ブロック協議会／部落解放共闘九州ブロック県民会議／九州社会福祉協議会連合会児童養護施設協議会／九州ブロックPTA協議会／佐賀県／佐賀県教育委員会／佐賀県小中学校校長会／佐賀県高等学校長協会／部落解放同盟佐賀県連合会／部落解放・人権政策確立要求佐賀県実行委員会／部落解放共闘佐賀県民会議／(社)佐賀県部落解放推進協議会／佐賀県同和対策推進連絡協議会／佐賀部落解放研究所／佐賀県隣保館連絡協議会／佐賀県教職員組合／同和問題にとりくむ佐賀県宗教者連絡協議会／佐賀地区同和問題9社協議会／佐賀県保育会／佐賀県国公立幼稚園会／(社)佐賀県私立幼稚園・認定こども園連合会／佐賀県PTA連合会／佐賀県高等学校PTA連合会／佐賀県公民館連合会／佐賀県地域婦人連絡協議会／(社)佐賀県子ども会連合会／(社)佐賀県社会福祉協議会／西九州大学／西九州大学短期大学部／佐賀女子短期大学／九州龍谷短期大学／国立大学法人佐賀大学／社会福祉法人若桶どんぐり村／NPO小麦の家／NPOわかば／NPOとす市民活動ネットワーク

昨今の私たちを取り巻く状況は、日本を含む東アジアの不安定な状況だけではなく、欧米での排外的な動きが活発化し、先の見通せない状況にあります。日本社会でも、格差の拡大に伴い貧困の連鎖が深刻化し、加えて排外的で不寛容な風潮が広がりを見せています。条件の違いや機会の不均等をことさらに無視することで、「自己責任」を問う風潮が強まっているからです。

2016年12月に施行された「部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)」を実効あるものとしていくには、また、基本的人権の享有をすべての人のものとしていくには、私たち一人ひとりが、そして、次代を担う子どもたち一人ひとりが、主体者として、社会の在り方を決定するために必要な知識とスキル、人権を実現していくものの見方と考え方、行動力を獲得していかなければなりません。

施行70周年を迎えた日本国憲法の精神を具現化し、人権文化を創造していく営みを広げるために、私たちおとな自身の、そして子どもたちの学びの深化に努めてまいりましょう。

一人でも多くのおみなさんをご参集を、佐賀の地で、お待ちしております。

第44回九州地区人権・同和教育夏期講座 実行委員長 九州地区県同教連絡協議会 会長 野口 誠也

8/23水 全体会／記念講演 佐賀市文化会館 大ホール

人権教育 このよきもの ～優しさとじりつを学校文化に～

公益社団法人 全国人権教育研究協議会 監事 中村 衛さん

子ども、学校、教育をとりまく社会状況をふまえ、子どもの育ちと学びを保障する取り組みを、人権を基盤に据えた具体的な実践をもとに話していただきます。家庭や地域と連携・協働した学校づくり、生き方に学ぶ人権学習などについて学びます。

8/24木 特別講座 佐賀市文化会館 大ホール

講座I

どんな境遇の子ども・若者も見捨てない！
～社会的孤立・排除を生まない総合的な支援体制の確立に向けて～

佐賀／特定非営利法人 NPOスチューデント・サポート・フェイス代表 谷口 仁史さん

社会はこれまで以上に貧困と孤立にさらされようとしています。学校に行けない、仕事が続かない、将来に希望が持てない…。「出かける」「つながる」「はぐくむ」をキーワードに関係機関と連携し、アウトリーチ(訪問支援)と重層的な支援ネットワークを活用した多面的なアプローチがなされています。社会的少数者の社会的孤立・排除を生まない支援体制の在り方・進め方を考えます。

講座II

「はじめて色覚にであう子どもたちのために」
～色覚の「異常」ではなく“少数色覚”というとらえを広げる取り組み～

大分／しきかく学習カラーメイト代表、別府市立青山中学校 尾家 宏昭さん 大分／大分県人教事務局 足立 哲範さん

学校で一律行われてきた色覚検査は2002年度に廃止になりましたが、2014年に文科省から出された通知(26文科第96号)が「検査再開」ととらえられるなど全国で混乱が見られます。そんな中、本年3月に出版された「はじめて色覚にであう本」は、子どもたちの学習資料として、これまでにない視点でつくられました。そこで、同書に書かれた“少数色覚”について正しい知識をプレゼンテーションや具体的資料にもとづいて学びます。

講座III

部落問題の現状と課題 ～部落差別の実態と「部落差別解消推進法」～

九州地区県同教連絡協議会副会長・部落解放同盟福岡県連合会執行委員 福永 謙二さん

2016年12月に「部落差別の解消の推進に関する法律」が成立、施行されました。この講座では、その背景である近年の悪質な部落差別事件の実態、他の人権課題に関する法律の流れ、また法律ができたことの意義や今後の課題などを提起していただき、学校教育、社会教育での実践の方向性を考えます。

8/24木 実践講座(分科会)

掲載順は、報告順ではありません。内容については、今後の状況により変更することがあります。会場およびアクセスについては、次頁、当日の「要録」等にて、あらかじめご確認ください。

第1分科会 テーマ 乳幼児教育にかかわって

会場 佐賀市文化会館 2F 大会議室

子どもたちが教えてくれた
～おかしいことをおかしいと言える、苦しい時には苦しいと言えるなかまがいること～
田邊 タカさん(大分/杵築市立大田子ども園)
「こども園」の園長という立場から担任となって初めて見えてきた子どもたちの思いから多くのことに気づかされた。子どもたちが思いをぶつけ合いながら折り合いをつけ、つながっていった姿に学んだことを報告。
「でもね、ぶたさんかわいいばい!…」
～自分を大事に思えるように～
穴井 沙耶花さん(熊本/小国町立宮原保育園)
パンツにうんちが付いているの言えなかったやすし。くらしに参入し、読み聞かせ、体操、「じぶんのーと」の取り組みが進められていく。友だちの「ぶたさん、くさいよね～」に「でもね、ぶたさんかわいいばい!」と返していくやすしの姿に報告者自身の成長を重ねた報告。

第3分科会 テーマ 学校の教育力の充実 II

会場 メートプラザ佐賀 1F 多目的ホール (佐賀勤労者総合福祉センター)

「おどしたって効かんけん!」から
「友だちとやりなおしたい」へ
河野 清人さん(大分/津久見市立津久見小学校)
攻撃的な言葉をあきらめ、排除という形で思いを表現してしまう子どもたち。まわりとぶつかり、「信用できる人なんか誰もおらん」という寛。寛とまわりをつなげたいと思いつながら試行錯誤した1年間の実践。
「子どもとともに歩く」
野口 恵里さん(熊本/宇城市立当尾小学校)
人権学習に苦手意識を持つ報告者。「うちの人のしごと」の学習の中で、親と子どもが元気になるべく立ち会っていく。やがて自身の家族を見つめ直し、差別からの解放を実感する。子どもとともに学び成長した取り組みの報告。

第5分科会 テーマ 子ども支援・親支援 II

会場 アバンセ(佐賀県立生涯学習センター)1F ホール

「絶対にない。断じてそれはない。」
～Aさんとの関わりの中で～
中原 博文さん(佐賀/佐賀市立思斉中学校)
教室に入れなくなったAさん。家庭訪問を繰り返しながら、Aさんの願いや保護者の願いをつかみとろうとする報告者。Aさんの希望する進路を実現するために、学校の職員がチームとして支援していった3年間の実践。

「みんなが笑顔でいられますように」
吉竹 資英さん(鹿児島/鹿児島県立開陽高校通信制)
施設で自分の子どもと生活しながら学んでいるAさん。報告者は、Aさんに「入って来すぎ」と言われながらも家庭訪問を繰り返す。そして、Aさんの夢の実現に向けて、かわり続ける中で、生徒の思いを知り、試行錯誤しながら取り組んでいくことの大切さを再認識した報告。

第2分科会 テーマ 学校の教育力の充実 I

会場 佐賀市文化会館 1F イベントホール

「いじめをなくそうと発言したい!」
～子どもたちが本音で語り合える学級へ～
佐藤 祐子さん(鹿児島/伊佐市立本城小学校)
「なかま外し」「いじめ」が渦巻く学級。報告者は、子どもたちの「なかまになりたい」という思いを信じて、部落問題学習やなかまづくりに取り組む。子どもたちが、言えなかった思いを語り始め、「大切なこと」に気づいていく取り組みの報告。
つながることで、できたこと
～放課後学習(チャレンジ教室)の取り組みから～
松田 美紀さん(福岡/筑紫野市立二日市北小学校)
識字学級や人権学習・歴史学習を通して、さまざまな人に出会い、自分を見つめ直し、差別に対するの怒りを持つようになった報告者。子どもの学びと育ちを保障する、家庭や地域、関係機関と連携した放課後学習の取り組みの報告。

第4分科会 テーマ 子ども支援・親支援 I

会場 佐賀県教育会館 2F 大会議室

「地域の学校で、なかまとともに」
～視覚障害のあるYさんの進路・学力保障の取り組み～
小佐々 慎二さん(長崎/元佐世保市立中里小学校)
「地域で多くのなかまとともに育つことが将来のかけがえのない財産になる」という保護者の思いで地域の小学校に通った全盲のYさん。Yさんが地域の仲間との学び合いを通して生きる力をつけるために様々な取り組みで支えていった実践の報告。
「たかしの笑顔にふれて」～孤立している家庭に関わって～
外山 俊行さん(宮崎/綾町立綾中学校)
転校をくり返すたかしの親の身勝手子どもが振り回されているとみていた自分。そんな時、教育集会所で「同和教育は、まず家庭訪問して親の思いを聞くところからじゃと思うよ」という地区の父親から言われた言葉を思い出す。自分の差別性に気づかされ、たかしに寄り添った日々を報告。

第6分科会 テーマ 人権のまちづくり

会場 佐賀市文化会館 1F 中ホール

みんなで“まなび”を愉しむっちゃ!!
～霧丘小学校PTA人権教育委員会の“まなび”について～
中島 弘陽さん(福岡/北九州市立霧丘小学校)
保護者たちが、地域の教育やまちづくりに対する思いに出会い直し、その“まなび”を人権フェスタでパネル展示したり、子どもたちへの授業で話したりします。つながり、学び合い、発信することで、おとなも子どももエンパワーメントしていく報告。

「水俣病を通して学ぶ」
梅田 卓治さん(熊本/水俣市立久木野小学校)
ふるさと水俣に目をそむけ、出身を隠そうとしていた報告者。同和教育と出あい、水俣に戻り患者さんに出あっていく。学び、自身が豊かになっていることを実感する。患者さんの思いを出発点に、「公害を出さない、水俣を誇りうる」学びを地域に広げ、つながりの再生をめざす取り組みの報告。